

Q²⁴

吸引チューブ、吸引瓶の消毒、また経腸栄養剤の投与セットの消毒はどのようにすればいいのですか？

A

気管内吸引チューブを繰り返し使用するのであれば、次の①～③の手順で消毒を行ってください¹⁻⁴⁾。

- ①使用後のチューブ外側をアルコール綿で清拭する。その後、粘液の除去のため滅菌水を吸引する。
- ②引き続き、8%エタノール添加の0.1%塩化ベンザルコニウム(ザルコニン[®]A 0.1、ヤクゾール[®]E 0.1など)を吸引して、チューブ内腔に本液を満たした後に、本液へ浸漬しておく。
- ③次の使用前には、消毒薬の rins の目的で、滅菌水を吸引する。

吸引瓶の消毒には、蒸気や熱水がもっとも適しています。フラッシューディスインフェクター(90℃・1分間の蒸気)やウォッシャーディスインフェクター(80～93℃・3～10分間の熱水)などを用いて消毒してください。

蒸気や熱水による消毒が行えない場合には、0.1%両性界面活性剤(テゴ-51[®]、ハイジール[®]など)や0.1%(1,000ppm)次亜塩素酸ナトリウム(ミルトン[®]、ピューラックス[®]など)などへの30分浸漬を行います。

経腸栄養剤の投与セット(バッグ型投与容器と投与チューブ)の消毒には、次亜塩素酸ナトリウム(ミルトン[®]、ピューラックス[®]など)が適しています。水洗い後に、次回使用時まで0.01%(100ppm)次亜塩素酸ナトリウムへ浸漬しておきます^{5,6)}。また、次亜塩素酸ナトリウム浸漬に代わる方法として、水洗後にチューブ乾燥機で乾燥させる方法もあげられます。

なお、円筒型の投与容器であれば、食器洗浄機による熱水消毒も適した方法です。

文献

- 1) Oie S, et al. : Microbial contamination of antiseptics and disinfectants. Am J Infect Control 1996; 24: 389-395
- 2) 尾家重治, ほか: 気管内吸引チューブの微生物汚染とその対策. 日環感 1993; 8: 15-18
- 3) 尾家重治, ほか: 気管内吸引チューブ浸漬用消毒薬(ザルコニンA液0.1)の使用後の微生物汚染調査. 医学と薬学 1999; 42: 989-991
- 4) 諏訪雅宣, ほか: 低濃度エタノールを添加した塩化ベンザルコニウムの殺菌効果. 医学と薬学 2003; 50: 179-181
- 5) Oie S, et al. : Microbial contamination of enteral feeding solution and its prevention. Am J Infect Control 1993; 21: 34-38
- 6) Oie S, et al. : Comparison of microbial contamination of enteral feeding solution between repeated use of administration sets after washing with water and after washing followed by disinfection. J Hosp Infect 2001; 48: 304-307

(尾家重治)